

学習内容報告書 フォーマット

学校名	青森県むつ市立脇野沢小学校
授業者	脇野沢小学校 北村弓子、竹内光洋

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

ドルフィンクラブ

1-2. 学年

3 学年・ 4 学年・ 6 学年（5 学年は在籍なし。1. 2 学年は生活科の予備時間で参加）

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間（1. 2 学年は生活科の予備時間で参加）

1-4. 単元の概要

春になるとむつ湾にやってくるカマイルカの観察（イルカウォッチング）
イルカの研究者を招いた学習会（海洋教室①）
北前船の歴史を窓口にした学習会（海洋教室②）
下北ジオサイトである「鯛島」をテーマにしたジオパーク学習
ジオパーク学習発表会での、研究成果の発表

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- ・むつ湾の豊かな恵みを受けてきた脇野沢で、今新たな資源として見直されているカマイルカの研究を通じて、郷土を誇りに思う気持ち、愛する気持ちを育てるとともに、その環境を守ることの大切さを知り、できることを考えていく。
- ・カマイルカの研究を通じて、海をはじめとした自然に関する興味関心、自然を守る大切さ、自然の素晴らしさなどの思いを醸成する。
- ・カマイルカの研究を通じて、子どもたちの探究する力を育成する。
- ・むつ市で推進する「下北ジオパーク」学習との関連の中で、海とともにある下北の自然の貴重さ、凄さ、守るべきものであるといったことを知り、深め、広げる活動につなげる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・海の恵みに生かされてきた自分たちの郷土を誇る気持ちや愛する気持ち
- ・動物や自然への興味関心、それらを守ろうとする責任感、むつ湾の豊かさを守ろうとする態度
- ・イルカの研究を通じた探究心や探究的な態度
- ・調査やインタビュー、多人数の前での発表などを通じたコミュニケーション能力
- ・新聞作りや発表会の資料作りを通じた、情報をまとめる力

1-7. 単元の展開（全30時間）※6学年の内容について

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
10	<p>イルカの研究 【イルカウォッチング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年の活動をもとに、今年度の活動の目標や内容を考える。 ・ 漁師からイルカ出現の情報を得る。 ・ 実際に海で観察を行う。 ・ わかったことをまとめ、次への疑問や課題を見いだす。 	<p>指：今までの積み重ねを生かし、更に研究を深められるよう意欲付けをする。 ：的確な情報処理を行わせる。 評：それぞれが課題意識を持ち、計画的に活動することができた。 外：むつ市海と森ふれあい体験館館長 五十嵐健志 氏 ：むつ市脇野沢漁業協同組合</p>
4	<p>海洋学習 【海洋教室①：世界のイルカについて知ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国のイルカやクジラの生態や、その保護等について知り、自分たちの活動と比較し、生かせることはないか考える。 <p>【海洋教室②：北前船と昆布ロード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暖かい海と脇野沢の違いや、昔脇野沢も昆布ロードで全国とつながっていたことを知る。 	<p>指：イギリスから来ている研究者から、外国の海や海洋生物に対する意識や活動について聞き、脇野沢の海との相違点や類似点に着目することで正しい知識を得る。 外：むつ市海と森ふれあい体験館臨時研究員 リアン・ロサ氏 ダニエル・ロサ氏 ：南の地方の海との相違点や類似点、また昔から海でつながっていることを知る。 外：元長崎大学教授 西村千尋 氏 評：様々な人との交流を通して、多様な考え方や生き方があることを知ることができた。また、そのことから、自分の生き方についても考えるきっかけとなった。</p>



<p>10</p>	<p>下北ジオパーク学習 【すごいぞ脇野沢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鯛島の成り立ちを知る。 ・ 鯛島に上陸し、実際の様子を観察する。 ・ 岩石について調べる。 ・ 沿岸の岩石について調べる。 ・ 海岸のゴミの量を調べる。 ・ 学習したことをまとめ、発表する。   	<p>指：自分たちが住む地域にある、ジオサイト「鯛島」のすごさについて、講師から話を聞き、更に自分で調べたい、知りたいという気持ちを高める。</p> <p>：写真や動画を活用し、イルカにとどまらず自然環境を守るためにどのようなことをすればよいか考え、プレゼンソフトを使ってまとめる。</p> <p>外：海洋研究開発機構むつ研究所長 田中武男 氏 ：下北ジオパーク推進協議会顧問 渡邊修一 氏</p> <p>評：研究した内容をまとめ、プレゼンテーションソフトを使って効果的に発表することができた。</p> 
<p>6</p>	<p>脇野沢の水産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脇野沢の水産業の歴史を調べる ・ 現在の水産業について調べる ・ 現在の課題を見だし、改善に向けてできることを考え、更に自分にできることはないか考える。 ・ 表や写真などを効果的に使い、壁新聞にまとめる、発表する。 	<p>指：江戸時代から脇野沢の漁業が盛んであったことや養殖業について多くの人の努力があったことを理解させる。</p> <p>：SDGsを意識しながら、環境保全のために自分ができる取り組みについて考えさせる。</p> <p>評：ふるさとの基幹産業である水産業の歴史と現在の状況を知ることから、自分にできることを考えることができた。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・イルカウォッチングを通して、イルカの生態や特徴に興味を持ち、探究への意欲を高める。
- ・イルカウォッチングを通して、ふるさと脇野沢の海（むつ湾）の自然の素晴らしさに気づき、ふるさとを大切にしていこうとする思いや態度の醸成につなげる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 イルカウォッチングのめあてを確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何頭くらいいるのだろう ・どんな様子か観察しよう ・それぞれの特徴を見つけよう ・ジャンプからジャンプまでの時間を計ろう 	<p>指・学校での事前学習を想起させ、各自に観察の観点を意識させる。</p> <p>評・観点をしっかりと意識できたか</p>
<p>2 イルカを観察する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5～6頭の群れが何組もいる。 ⇒50頭以上の群れだろう。（講師） ・ジャンプを続けたり、潜って離れたところまで移動したりしている。 ・背びれの大きさや形が違う。 ⇒背びれが小さいのは子どものイルカ。 ・背びれがないイルカがいる。 ⇒襲われて噛まれることもある。 	<p>指・それぞれの児童に応じた観察の観点について、その都度声かけをして意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同乗している講師の方に、観察ポイントを示してもらい、多様な視点で観察を行う。 <p>評・それぞれの観点到に沿って、観察できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の方から示された観点など、新しい観点についても観察できたか。
<p>3 感想を発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん観察できて楽しかった。 ・すぐ近くまで近寄ってきたイルカがいて、とてもかわいかった。 ・今年はコロナでできないと思っていたけれど、イルカウォッチングができて楽しかった。 ・色々な人に見に来て欲しい。 	<p>指・児童の気持ちと観点到に沿った観察の双方を大切にして、今後につながる発表を引き出す。</p> <p>評・「出会えてよかった、嬉しかった」「イルカがやってくる脇野沢の海の素晴らしさ」などに気づくことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の（地域の）人たちにもわかって欲しいという思いと、脇野沢の海を守っていきいたいという思いを共有することができたか。

3. 今回の活動の自己評価

コロナ禍で、計画していたもののできなかった内容も多く、こぢんまりとした活動となったが、できる限りの内容を確保することで、かなりの部分で狙いを達成することができた。

- ①イルカウォッチングを軸にしたカマイルカの研究を通じて、ふるさとの海の素晴らしさや貴重さを知り、郷土を誇りに思う気持ち、愛する気持ちが育ってきている。また、自分たちのふるさとの環境を守るためにできることを考える機会となっている。
- ②下北ジオパークのジオサイトである「鯛島」上陸を軸とした、ジオパーク学習を窓口として、自分たちの身近にある自然の貴重さに気づき、①と同様に、郷土を誇りに思う気持ち、愛する気持ち、海をはじめとした自然に関する興味関心、自然を守る大切さ、自然の素晴らしさなどの思いが確実に育ってきている。
- ③これらの活動を通じて、子どもたちの探究する力が育ってきている。

4. 今後の課題

- ・毎年学年が上がり、児童が入れ替わっていく中、研究の積み重ねとしての継続性を図ることが難しい。児童の探究心を育てるためには、学校として研究を積み重ねていくというこれまでの方法だけでなく、一人一人がテーマをもって6年間を通して深めていく方法など、より実態に合った研究の進め方を検討する必要がある。
- ・コロナ禍の終息が見通せない中、この状況でも進められる、実現可能な活動や研究の方法について検討する必要がある。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特記する事項なし

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。